

シリーズ: 使徒言行録# 50 聖書箇所(新共同訳): 使徒18:18-19:10 中心聖句: エフェソ4:13

タイトル: 成熟を目指して成長する 特別行事: 子どもたちのためのお話、DMI活動報告、母の日

I. 導入

おはようございます。生まれたばかりの赤ちゃんは、母親に頼りきりです。年月が経つと、子どもは成長して、徐々に自立し、大人になります。同様に、私たちがクリスチャンになると、信仰の子として生まれ変わります。これは、霊の新生であり、新たな出発です。ペトロ第一**2:2-3**は、このように勧めます。「**2:2** 生まれたばかりの乳飲み子のように、混じりけのない霊の乳を慕い求めなさい。これを飲んで成長し、救われるようになるためです。**2:3** あなたがたは、主が恵み深い方だということを楽しみました。」



今日の聖書箇所では、イエスに従うことの理解を深め、信仰において成長を遂げた人々の姿が見られます。では、使徒18:18-22を読みましょう。

II. 聖書朗読(使徒言行録18:18-22, 新共同訳)

18:18 パウロは、なおしばらくの間ここに滞在したが、やがて兄弟たちに別れを告げて、船でシリア州へ旅立った。プリスキラとアキラも同行した。パウロは誓願を立てていたので、ケンクレアイで髪を切った。18:19 一行がエフェソに到着したとき、パウロは二人をそこに残して自分だけ会堂に入り、ユダヤ人と論じ合った。18:20 人々はもうしばらく滞在するように願ったが、パウロはそれを断り、18:21 「神の御心ならば、また戻って来ます」と言って別れを告げ、エフェソから船出した。18:22 カイサリアに到着して、教会に挨拶をするためにエルサレムへ上り、アンティオキアに下った。

III. 教え

パウロは、3年間の旅を終えてアンティオキアに戻りました。この旅で、パウロはトルコとギリシャの大部分を巡りましたが、半分近くの期間をコリントで過ごしました。そこでパウロは同業のテント造りをしていたアキラとプリスキラ夫妻と親しくなりました。パウロがコリントを離れた際、二人はエフェソまで同行したほどです。ふたりはそこに留まって働きを続けました。



使徒**18:18**の後半はこう語ります。「パウロは誓願を立てていたので、ケンクレアイで髪を切った。」これは、ケンクレアイの港の写真です。髪を切ったばかりのパウロがここからエフェソに向かう船に乗った様子を想像できるでしょうか。民数記6章で、髪をそり落とす行為はナジル人の誓願を果たしたことを意味します。コリントでの宣教中いつかの時点で、パウロは主への献身を確認する意味でそのような誓願を立てたようです。それは、先週読んだように、主が幻でパウロに



語られた後のことです。そういうわけで、パウロは一定期間髪を伸ばし、禁酒しました。

パウロは、イエス・キリストを信じる信仰に入った異邦人は、ユダヤ教の律法や慣わしなどの掟に縛られるべきではないと常に主張しました。とは言え、パウロ自身はユダヤ人であり、ユダヤの風習に習うことがしばしばでした。旧約の時代、神の民の一員になりたいと願う者は、ユダヤの伝統と慣習に従わなければなりません。一方、新約の時代は、ありのまま神のもとに行くことが許されています。キリストが十字架で成してくださった御業のおかげです。イエスに従うことと矛盾する風習のみを避ければ、自分の文化をそのまま維持することができます。

使徒18:22はこう語ります。「カイサリアに到着して、教会に挨拶をするためにエルサレムへ上り、アンティオキアに下った。」カイサリアはイスラエルの海岸に面した町です。そこから内陸の高地へと登っていくと、エルサレムに着きます。エルサレムは標高約760メートルのところにあります。パウロがエルサレムへ上ったのは、おそらく過越しの祭りのためだったでしょう。それでエフェソには長く滞在せず、また戻ることを約束してこう言ったのでしょう。(使徒18:21)「神の御心ならば、また戻って来ます」

パウロの約束の言葉は、成熟した信仰を示す重要な一面を表しています。信仰の成長とともに、神のみこころを求め、神のみこころのうちに歩むように自然となります。成長したクリスチャンは神の愛と恵みをよく知っており、すべてにおいて神のみこころを信頼します。人は生まれつき信仰を持っておらず、自己実現を目指して頑張ります。そうすると、神とも周囲の人とも衝突が絶えません。成長したクリスチャンは、常に神のみこころにかなった歩みをするを求め、神と二人三脚の人生です。私たちが皆、キリストにあって成熟するなら、クリスチャン同士の間にも完全な協調関係が生まれるでしょう。



イエスは、ゲツセマネの園の祈りで、私たちに模範を示してくださいました。ルカ22:42「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。」では続けて、使徒18:23-28を読みましょう。

IV. 聖書朗読(使徒言行録18:23-28, 新共同訳)

18:23 パウロはしばらくここで過ごした後、また旅に出て、ガラテヤやフリギアの地方を次々に巡回し、すべての弟子たちを力づけた。18:24 さて、アレクサンドリア生まれのユダヤ人で、聖書に詳しいアポロという雄弁家が、エフェソに来た。18:25 彼は主の道を受け入れており、イエスのことについて熱心に語り、正確に教えていたが、ヨハネの洗礼しか知らなかった。18:26 このアポロが会堂で大胆に教え始めた。これを聞いたプリスキラとアキラは、彼を招いて、もっと正確に神の道を説明した。18:27 それから、アポロがアカイア州に渡ることを望んでいたの、兄弟たちはアポロを励まし、かの地の弟子たちに彼を歓迎してくれるようにと手紙を書いた。アポロはそこへ着くと、既に恵みによって信じていた人々を大いに助けた。18:28 彼が聖書に基づいて、メシアはイエスであると公然と立証し、激しい語調でユダヤ人たちを説き伏せたからである。

V. 教え

この個所のはじめに、パウロがアンティオキアに戻ってしばらくそこで過ごしたとあります。アンティオキアの教会は紀元一世紀からこの（写真参照）洞窟で集っていたことがわかっています。パウロがまさにこの場所で宣教の旅と活動の報告をした可能性が高いと言えます。自分を送り出してくれた教会に戻り、そこでしばらく過ごすというパウロの行為は、説明責任をあらわしています。これは、クリスチャンの成長をあらわすもうひとつの側面です。分別のあるクリスチャンは単独で働きをしません。自分の属せる群れを求め、兄弟姉妹に対して責任ある歩みをしようとします。



単独で働きをしている様子の牧師や宣教師がいたら、「所属はどちらですか」と無礼のないように聞くとよいでしょう。説明責任を誰にも果たしたくないと言う人には用心するべきです。パウロはアンティオキアでしばらく滞在し、その後第3次宣教旅行に旅立ちました。その旅では、ガラテヤやフリギアを再び訪れ、以前関わった弟子たちを励ましました。

そのころエフェソでは、エジプトのアレクサンドリア出身のアポロという男が現れました。彼はイエスについて語りましたが、知識の足りないところがありました。使徒18:26「このアポロが会堂で大胆に教え始めた。これを聞いたプリスキラとアキラは、彼を招いて、もっと正確に神の道を説明した。」アポロは旧約聖書に精通しており、イエスについてもいくらかは知っていました。自分の知っていることは正確に教えていましたが、その知識は完全ではありませんでした。

プリスキラとアキラについてはまた後日詳しく話しますが、ここではアポロに教えたとあります。ふたりの説明に耳を傾けたアポロから、謙虚さと、人から学ぼうとする姿勢がうかがえます。とくに、アポロがプリスキラから学ぼうとしたのは注目すべきことです。当時のユダヤの通念では、女性を教師として認めなかったからです。キリストにある成長を求めるなら、私たちにも人の教えを受け入れる姿勢が必要です。アポロはその良い例です。

アポロはヨハネの洗礼しか知りませんでした。クリスチャンの洗礼はそれ以上のものです。つまり、イエスの死と復活においてイエスとひとつにされることをあらわします。ローマ6:3-4「6:3 それともあなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたちが皆、またその死にあずかるために洗礼を受けたことを。6:4 わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。」アポロはクリスチャン洗礼の真意をはじめとする教えを受けて、喜んだことでしょう。

しばらくして、アポロはアカイア州コリントに行くことを望みました。使徒18:27「それから、アポロがアカイア州に渡ることを望んでいたのも、兄弟たちはアポロを励まし、かの地の弟子たちに彼を歓迎してくれるようにと手紙を書いた。アポロはそこへ着くと、既に恵みによって信じていた人々を大いに助けた。」クリスチャンの成長を示すもうひとつの側面は、人を助け励まし、その人の召された働きへと送り出すことです。プリスキラとアキラをはじめ、エフェソの信徒たちは、アポロを自分たち

のもとに留めようとはしませんでした。それどころか、紹介状を書いて、彼を送り出しました。

アポロがコリントに行くということは、ごく最近までパウロが一年半過ごした町に行くということです。結果的に、アポロはコリントでなされたパウロの働きの後継者となりました。現地の人の中には、パウロの教えよりアポロの教えを好む人も出てきました。しかし、分別あるクリスチャンは互いに競い合ったりしません。むしろ一致を求め、喜んで励まし合います。後にパウロは、コリント第一**3:6**にこう記しています。「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。」

続いて、使徒19:1-10を読みましょう。

VI. 聖書朗読(使徒言行録19:1-10, 新共同訳)

19:1 アポロがコリントにいたときのことである。パウロは、内陸の地方を通ってエフェソに下って来て、何人かの弟子に出会い、19:2 彼らに、「信仰に入ったとき、聖霊を受けましたか」と言うと、彼らは、「いいえ、聖霊があるかどうか、聞いたこともありません」と言った。19:3 パウロが、「それなら、どんな洗礼を受けたのですか」と言うと、「ヨハネの洗礼です」と言った。19:4 そこで、パウロは言った。「ヨハネは、自分の後から来る方、つまりイエスを信じるようにと、民に告げて、悔い改めの洗礼を授けたのです。」19:5 人々はこれを聞いて主イエスの名によって洗礼を受けた。19:6 パウロが彼らの上に手を置くと、聖霊が降り、その人たちは異言を話したり、預言をしたりした。19:7 この人たちは、皆で十二人ほどであった。

19:8 パウロは会堂に入って、三か月間、神の国のことについて大胆に論じ、人々を説得しようとした。19:9 しかしある者たちが、かたくなで信じようとはせず、会衆の前でこの道を非難したので、パウロは彼らから離れ、弟子たちをも退かせ、ティラノという人の講堂で毎日論じていた。19:10 このようなことが二年も続いたので、アジア州に住む者は、ユダヤ人であれギリシア人であれ、だれもが主の言葉を聞くことになった。

VII. 教え

先ほど、パウロは神のみこころならエフェソに戻ると約束しました。これはまさにみこころでした。エフェソは人口25万人の大都市でした。エフェソについては、来週さらに詳しくお話します。今日覚えておいていただきたいのは、エフェソがローマ帝国の主要都市であり、現在のトルコ西海岸に位置するということです。パウロはエフェソに滞在し、まずは会堂で、それからティラノという人の講堂で二年以上も教えました。パウロの教えによって、エフェソの教会は宣教師を送り出す拠点となり、ローマ帝国のアジア州をはじめ、他の地域にも福音が告知されました。



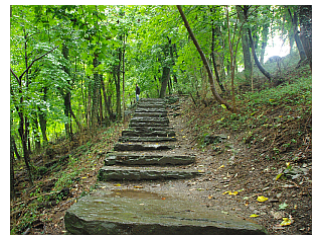
バプテスマのヨハネは、イエスの来臨に備えて道を備えるという大きな働きをしました。ここでもまた、アポロと同様に、ヨハネの洗礼を受けてイエスを信じてはいるが、かなり知識に欠けた人たち

が登場します。エフェソに到着してまもなく、パウロはその人たちに出会い、彼らが聖霊について知らないことに気づきます。使徒19:2でパウロはこう尋ねます。「彼らに、『信仰に入ったとき、聖霊を受けましたか』と言うと、彼らは、『いいえ、聖霊があるかどうか、聞いたこともありません』と言った。」

今日の教会でも、聖霊を知らない、または御霊の実や賜物について漠然と知っているだけというクリスチャンはたくさんいます。聖霊やクリスチャンの信仰の基礎についてもっと知る必要性を感じている人は、アルファコースに参加されることをお勧めします。アルファコースでは、15回のコースの中で、聖霊についての話が3回あります。三位一体の神の第三格である聖霊について学び始めるには最適のコースでしょう。イエスのことを学び始めた人や新しくクリスチャンになった人にアルファコースをお勧めしていますが、自分の信仰についてわからないところをクリアにするためにもとても役立ちます。アルファコースで学んだ後、アルファのグループリーダーとなれば、家族や友人に説得力のある方法で福音を伝える機会にもなります。アルファコースは家庭の一室で簡単に開けます。

VIII. 結び

今日の聖書箇所、成長したクリスチャンが示した良い模範を見ることができました。また、多くのクリスチャンは信仰についての理解がまばらであることもわかりました。それはそれでよいのです。私たちは皆、同じ信仰の旅路の途上にありますが、どの地点にいるかは各々違うからです。一人ひとりがキリストを信じる信仰の成熟を目指して歩みつづけましょう。信仰の旅路に踏み出したばかりの人もいれば、長年主とともに歩んできた人もいます。どの地点にいても、それでよいのです。大切なことは、前進し続けることです。イエスとさらに親しく歩み、神の御国を完全に知ることを目指してください。道は険しくても、主がともにいてくださいます。私たちを助けてくださいます。絶えず前進し、どんどん成長していきましょう。



エフェソを離れて数年後、パウロは現地の信徒たちに励ましの手紙を送りました。その手紙には、神が教会に働いてくださることが書かれています。今日のメッセージの要点はまさにここに集約されています。最後に、エフェソ4:11-13をお読みします。「4:11 そして、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教者、ある人を牧者、教師とされたのです。4:12 こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆき、4:13 ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。」

祈りましょう。

IX. 祈り